

活動報告

1. 役員会

第 43 回定期役員会の開催

第 43 回評議員会および理事会が 2010 年 3 月 16 日（火）に開催されます。平成 22 年度の事業計画および予算等が審議される予定です。

また、平成 21 年度の決算及び事業報告を審議する第 44 回定期役員会は 2010 年 6 月 22 日（火）に開催することになりました。

なお、ホームページに平成 20 年度決算書、事業報告書、平成 21 年度事業計画書、予算書などを掲載しています。

(<http://www.iti.or.jp/jigyoku.htm>)

2. 最近のプロジェクト・調査研究活動から

平成 21 年度の各研究会では外部講師等をお招きしその報告をもとに活発な意見交換を行っています。最近の主な活動は次の通りです。

1) 「ロシア・極東地域経済問題研究会」（1月22日（金））

①議題：「対露ビジネスの現状と課題—北陸地域を中心として」

講師：野村 允氏（環日本海経済交流センター貿易投資アドバイザー）

②議題：「極東開発の現状と展望」

講師：新井 洋史氏（環日本海経済研究所調査部部長代理）

2) 「欧州経済問題研究会」（2010年1月25日（木））

議題：「世界金融・経済危機下における欧州自動車産業の動向」

講師：佐久間 良夫氏（国際経済研究所研究部主席研究員）

3) 「中国労働市場研究会」（2010年2月8日（月））

議題：「中国での企業経営について」
講師：高岡 廉平氏（I. P. C. CO., LTD. 社長）

- 4) 「地域ブランド研究会」(2010年1月25日(月))
議題: 「医療機器集積都市(ドイツ)の地域ブランドの拡充への取り組み」
講師: 小林 誠氏(NGO 国際医療奉仕団ジャパンハート 監事)

- (3) 研究成果などの活用
高橋克秀「日本のFTA政策の成果と課題」(日本関税協会「貿易と関税」(2009年12月号))に季報69号「FTAは使われていないのか」が引用されました。

3. 調査研究報告書など

(1) 調査研究報告書

以下の資料を刊行しました。

- ・「世界主要国の直接投資統計集(2009年/2010年版) I. 概況編」
- ・「日本の商品別国・地域別貿易指数(2009年版)」

1998年度以降の調査研究の成果報告書の要旨をホームページの「最近の研究業績」に掲載しています。

<http://www.iti.or.jp/reports.htm>

(2) ホームページ

ホームページに掲載した最近のフラッシュ記事は次のとおりです。

133. 米国と似て非なる国、カナダの憂鬱と幸せ
132. バンクオーバー港の景色は何を物語るか
131. みかん貿易と麗しきバンクオーバー

4. 所外活動など

(1) 講演・セミナー

石川幸一客員研究員(亜細亜大学教授)が次の講演を行いました。

- ・「ASEAN 経済共同体」(於仙台商工会議所主催東南アジアセミナー、09年12月)
- ・「2010年の東南アジア経済」(新潟県主催新潟港利用促進セミナー、10年1月)

(2) 出版・寄稿

- ・佐々木高成客員研究員が「アジア太平洋巨大市場戦略」(日本経済出版社刊行)で「米オバマ政権のアジア太平洋戦略」を執筆しました。
- ・青木健客員研究員と石川客員研究員の共著になる「東アジア地域協力の共同設計」(西田書店)が出版されました。

(3) 人事、ほか

- ・長坂寿久客員研究員(拓殖大学教授)

がオランダの「蘭日賞」(オランダ・ライデン大学エイリオン財団)を受賞しました。オランダ型ワークシェアリングを日本に紹介したことなどが評価されました。日本人の受賞は初めてだそうです。

- ・石川客員研究員が、国土交通省国土計画局「アジア・グローバル構造における新たな経済・社会構造の実現に関する研究会」および日本機械輸出組合「アジア・太平洋 FTA 委員会」

の委員に就任しました。

- ・青木健客員研究員が昨年 11 月に逝去されました。余りに突然の訃報に所員一同、言葉を失いました。当研究所に多大の貢献をされてきた青木氏に感謝の念を直接にお伝えする機会を永遠に失ってしまいました。生前のご貢献に深く感謝しますとともにご冥福を心よりお祈りします。

次の本誌掲載論文等は、JKA の補助事業の成果の一部を活用している。

- 2020 年日本の経済活動による CO2 排出量予測
- インドの電力不足解消への取り組みと地球環境問題

(小林東策、濱田和章)